

世界のコンテナ港

16年取扱量1.8%増

仏アルファ
ライナーまとめ
上位10港変わらず

仏アルファライナーがまとめた世界のコンテナ取扱港の2016年コンテナ取り扱い実績は、推定で前年比1.8%増となった。16年前半は取扱量が低迷していたが、後半で大きく盛り返した結果、15年の1.4%増を上回った。上位10港の顔ぶれは前年と同じで、順位も一部が入れ替わっただけでほとんど変動はない。ただ、上位10港中5港が前年割れになったほか、フランスの港も実質横ばいなど、全般的には緩やかな成長となった。

東京30位 神戸55位

上位10港の16年順位を上したほかは、1位の上
前年と比較すると、広州 海から6位の釜山まで変
動がなかった。

順位	港	16年	前年比
1	上海	37.1	1.6
2	シンガポール	30.9	▲0.1
3	深圳 ※1	24.0	▲0.9
4	寧波	21.6	4.6
5	香港	19.8	▲1.3
6	釜山	19.4	▲0.2
7	広州	18.8	6.8
8	青島	18.0	3.3
9	LA・LB ※2	15.6	1.8
10	ドバイ	14.8	▲5.2
11	天津	14.5	2.9
12	ポートクラム	13.2	10.8
13	ロッテルダム	12.4	1.2
14	高雄	10.5	2.0
15	アントワープ	10.0	4.0
16	厦門	9.6	4.7
17	大連	9.6	1.5
18	ハンブルク	8.9	0.9
19	PTP ※3	8.3	▲9.2
20	レムチャパン	7.2	6.0
21	NY・NJ ※4	6.3	▲1.9
22	釜口	6.0	1.6
23	コロンボ	5.7	10.6
24	ホーチミン	5.6	3.2
25	ブレーメルハーベン	5.5	▲1.0
26	ジャカルタ	5.5	▲6.1
27	蘇州	5.4	3.1
28	アルヘiras	4.8	5.4
29	パレンシア	4.7	2.3
30	東京 ※5	4.7	1.6

【出所】アルファライナー2017 Issue12より
（注）取扱量単位は100万TEU、前年比の単位は%。※1、深圳は香港、蛇口、塩田の3港合
計。※2、LA・LBはロサンゼルス・ロングビーチの略。※3、PTPはタンジニャバラスの略。
※4、NY・NJはニューヨーク・ニュージャージーの略。※5、東京の取扱量は推定値

上位30港内で
伸び率が桁増
を記録したの
は、ポートクラ
ム（10.8%増）
とコロンボ（10
・6%増）の2
・港だけ。30位以
下ではマニラ
（33位、11・3
%増）、ビレウス
（38位、10・4
%増）、ムンドラ
（42位、18・7
%増）などが好

■北米西岸主要港のコンテナ取扱量

港	2月	増減率	1-2月	増減率
ロサンゼルス	625,381	(▲12.4)	1,452,021	(▲2.4)
ロングビーチ	498,312	(▲11.2)	1,081,001	(▲1.5)
オークランド	174,906	(▲7.0)	372,218	(▲1.9)
シアトル/タコマ	265,081	(▲0.8)	566,186	(▲7.9)
バンクーバー	250,515	(▲8.4)	490,037	(▲1.5)
プリンスルパート	56,649	(▲8.6)	122,684	(▲1.3)

注1) 輸出入、空コンテナ含む。単位はTEU、▲はマイナス、増減率は%。
注2) シアトル/タコマは国内実績も含む

の187万1000TEUとなった。前年同月比がマイナスになるのは5カ月ぶり。中国の旧正月（春節）休みが影響した。輸入コンテナ（実入り）は13%減の87万2000TEU。輸入コンテナが100万TEUを割り込むのは16年4月以来となる。

北米西岸主要港の2月コンテナ取扱量は、7港合計で前年同月比8%減

北米西岸主要港
5カ月ぶりに減少
輸入13%減、100万TEU割れ

調だった。
一方、上位港でドバイ（5・2%減）やタンジニャバラス（9・2%減）、ジャカルタ（6・1%減）などで取扱量を大きく減らした。
日本の港湾では最高が東京の30位。次いで神戸55位、横浜56位、名古屋

外貿2%増18万8600TEU

名古屋港 4カ月連続伸長

名古屋港管理組合統計センターのまとめによると、2017年2月の名古屋港外貿コンテナ取扱個数（概数）は前年同月を2%上回る18万8600TEUだった。月別取扱個数が前年同月を上回るのは4カ月連続。

大きな要因は、オークランドは9%減の6万4000TEU、3港合計では17%減の61万3000TEU。北米西岸港に占めるPSW3港のシェアは70・3%と、前月に比べて2・4%低下した。西岸北部（PNW）主

61位、大阪73位となった。日本の港のうち東京、神戸、横浜、大阪はアルファライナーの推定値。

1、2月の17年コンテナ累計取扱個数は、前年同期比3%増の38万4800TEUだった。

飛鳥埠頭東側で連続する3ターミナル（北公共・旧NCB・南公共）は、旧NCBが0・6%増の3万9900TEU、7カ月連続で増加した。南公共は25%増の3万1000TEUと大幅に伸びた。北公共は39%増の9300TEUだった。

飛鳥埠頭の取り扱いが好調

